



京都支部 2024年度支部活動報告



1. <2024. 04. 21 2024年度支部総会>
2. <2024. 06. 09 2024年度第1回例会>
3. <2024. 08. 20 つながりの輪 活動報告>
4. <2024. 10. 05 2024年度第2回例会>
5. <2024. 11. 20 2024年度第3回(野外)例会>
6. <2025. 01. 21 2025年新年会>
7. <2025. 02. 16 2024年度第4回例会>

1. 2024年度支部総会

2024年4月21日

日時 2024年4月21日（日）13：00～16：00

会場 ウィングス京都

出席者 12名

4月21日、中川慶子会員の司会で支部総会が開かれ、今年度の支部活動がスタートしました。最初に久保支部長から開会のご挨拶がありました。

「皆様、本日は生憎の雨でお足元の悪い中お集まりいただき、ありがとうございました。皆様のご支援の下、2023年度の活動を無事に終え、今日の総会を迎えることが出来ました。今年度は特に若い方々が頑張っておくれたのが印象的な一年でした。本部が立ち上げた“次世代をつなぐ会”のメンバーとして、3名の若手の支部会員（浅井さん、一原さん、塩尻さん）がハイブリッドで語り合う研修会を開く等活躍して下さっているのをうれしく思っています。又、支部の役員会でも、高齢者と共に若手の方々が入って、今の時代に即応した新しい会の運営を進めて下さっています。一年間皆様にご協力いただきましたことに感謝申し上げます。本日は種々の事情で参加者が少なくなりましたが、最後までよろしくお願い致します。」

出席者12名、委任状18名で総会の成立を確認後、支部長を議長に選出して議事を進めました。2023年度の事業報告、会計決算報告、会員移動、広報、及び国際委員会、交流部会からの活動が各担当者から報告されました。次いで、今年度の事業計画及び会計予算案が承認されました。支部会計の窮状に鑑み、来年度（2025年度）から支部会費を1000円値上げて2000円にする動議が提出され、全員一致で可決されました。最後に支部長から現在取り組んでいる「京都支部ユースの会」（仮称）についての経過説明がありました。3名の若手会員が奨学金応募者に呼びかけ、ネットワーク作りを検討して6月9日には役員会と共同で、ハイ



ブリッドの例会を開くことが決まりました。最後に松田副支部長から閉会のご挨拶があり、支部総会を無事に終了しました。

「本日はユースの方々とのつながりを広げる新しい試みも決まり、有意義な総会を持つことが出来ました。尊敬できる仲間たちの集いが開かれるということは幸せなことだと思います。今、世界はおかしなことになって、情勢が混沌としています。コンピュータも日進月歩ではなく、日進週歩の時代になっているとのこと。私たちは柔軟な考えを持って世界を見ながら、私たち自身の幸せと世界の平和を考えてこれからも頑張りたいと思います。今日はありがとうございました。」

なお、例年通り活動報告の冊子「2023年度活動報告 1年のあゆみ」が配布されました。総会終了後にはミニバザーが開かれ、欠席者からも寄付が寄せられました。多くの品がほぼ完売で、2万4千円を売り上げました。おしゃべりを楽しみながらの品定めで楽しい一時を過ごしました。



2. 2024年度第1回例会

2024年6月9日

今年度最初の例会は、若手の会員の方々に「つながりの輪」立ち上げを企画していただき、ハイブリッド形式で開催しました。以下、立ち上げコアメンバーの1人一原さんからの当日の活動報告です。

日時： 2024年6月9日（日） 10～12時

会場： ウィングス京都 地下11会議室（ハイブリッド形式）

参加者： つながりの輪立ち上げコアメンバー（浅井・一原・塩尻）

若手参加者（事前登録11名）

シニア参加者（東京支部2名、福井支部1名、京都支部8名、オンライン3名）

【開催趣旨】

公私ともに様々な悩み・イベントに直面する女性研究者が、世代や分野を超えてつながり、悩みを相談したり、公私ともに新たなつながりの機会を得られるような、負担のないゆるやかなネットワークを形成するために、立ち上げの会を開催する。

【当日の流れ】

開会

- ・ 開催趣旨（既述）の説明（一原）
- ・ 京都支部長よりひとこと（久保支部長）

「長年の思いであった若手研究者のネットワークをつくりたいという夢を実現できることはこの上ない喜びです。遠路はるばる参加してくださった岩村様、宮下様、東野様をはじめオンラインで繋がった若手研究者の皆様そして他支部のシニアの皆様と今日は思い切り語り合って「つながりの輪」を魅力あふれる輪にしていきたいと思います」

参加者自己紹介

会場参加者→オンライン参加者の順に、お名前・所属・研究テーマ等を紹介いただいた上で、くじをひいてもらい（オンライン参加者については塩尻が代理でくじびき）、以下のいずれかについて回答してもらった。

- 1 転機となった出来事
- 2 今の道を選んだ理由
- 3 最近、よく考えていること
- 4 おっと思っているアイデア
- 5 今、ハマっていること
- 6 失敗したこと



…参加者がお互いを知り合う機会となり、談笑が続いた。

シニアの方の現役時代のエピソードなども若手には参考になったと思われる。

招待講演

萩原幹花さん（九州大学理学研究員特別研究員（PD））の海外派遣事業支援による海外での研究生活の報告質疑



閉会（挨拶：浅井）

「本日は週末のお忙しい中ご参加くださりありがとうございました。この会は、助成の研究者が世代を超えてつながりを作ろうという思いからまずとにかく立ち上げた、という出来立ての会で、まだ多くの事は決まっていません。参加して下さる皆さんと一緒に創り上げていきたいと思います。普段交流の機会が必ずしも多くない異分野の仲間とのつながりを通じて、皆さんが日々の生活や研究の場に何か得るものがあると幸いです。これからもどうぞよろしくをお願いします。」

【立ち上げ会の（部分的）成果】

- 当日の質疑において、守田科学奨励賞など応募の年齢制限を見直していただきたいとの要望があった。
- 参加者を中心としてメーリングリストを作成し、今後の活動基盤を確立した。なおメーリングリストには、当日の参加が難しいがメーリングリストへの登録を希望した事前登録者を含む。
- 当日参加者の河口沙織さんの提案を受け、8/20（火）に有志でスプリングエイト見学・懇親会をコアメンバーが企画。実施に向けて準備を進めている。

3. つながりの輪 活動報告

2024年8月20日

スプリングエイト見学ツアーを催行しました！

報告 一原 雅子（京都支部）

2024年8月20日（火）、つながりの輪メンバーの河口沙織さん（高輝度光科学研究センター（JASRI）・放射光利用研究基盤センター）のご厚意で、兵庫県佐用郡にある大型放射光施設（Spring-8）見学を催行しました。

当日は小学生を含む16名が参加。職員さんにご説明をいただきながら、広大な敷地内をバスで移動しつつ、なかなか見ることのできない施設を見学しました。



当日参加した皆でチーズ！



立ち並ぶ実験室に圧倒されました！



実際に操作させていただき、みな大興奮

専門性の高い研究施設でしたが、河口さんのわかりやすい説明で、小学生でも「なんかすごい施設！」ということは体感していました。「この中を光が通っているの？すごい！」「大きいね！！」等々、素朴な感動の言葉もたくさん聞かれました。この体験がいずれ子どもたちのこれからの人生で、なんらかの研究関心につながっていくのかもしれませんが。

当日はつながりの輪からもご参加くださった方がありました。帰路、研究に関する話なども交え、ゆっくり交流することができました。こういったつながりの場の活動をこれからも設けていきたいと思っています。

最後になりましたが、この日の為に諸々ご準備くださいました河口様、本当にありがとうございました。

4. 2024年度第2回例会

2024年8月20日

日時 10月5日(土)14:00～16:00
会場 ウィングス京都
講師 萩原幹花氏
講演 「海外への挑戦～アメリカ編～」
出席者 10名

今回の支部例会では、第1回例会でのお話が大変興味深かった萩原幹花氏に引き続いて講演をお願いしました。萩原さんは2023年度JAUWの若手女性科学者海外研修助成事業に採択され、京都支部へ新入会員としてお迎えした若手研究者です。マステイング現象(*)を研究課題に九州大学大学院理学研究院・日本学術振興会の博士研究員として活躍されています。

本日は「森林に於ける香りを介した植物間コミュニケーション」の先行研究について興味深いお話を伺いました。ブナを対象に研究を始められた大学学部生時代から、昨年秋のアメリカでの調査・研究までの経験談を聞きながら、彼女の前向きで積極的な姿勢、みんなに愛される親しみやすい人柄に深く感動しました。



三ヶ月間の滞米中は、場所によって異なる研究手法を学ぶことを目的に、アメリカの研究者の調査に同行して4カ所の大学を訪問されました。コーネル大デービス校では、同じ草原にあっても香りが違うセージブラシの調査、コロラド州立大では、ロッキー山脈で松の種子の生態調査、オハイオ州立大では、シードトラップ(袋)に入るブナの種子の数の調査を行われました。

講演後は「マステイングの周期は?」「香りの分析は機械でも?」など活発な質疑応答が続きました。

(*)マステイング

樹木等の植物の種子や実の結実状況が一定の空間スケールで同調しつつ、数年おきに大きく変動する現象。日本のブナ林やミズナラ林等でも観察されている。捕食者が食べきれないほど豊作にすることで、種子の生存率や受粉効率を高めたりする効果がある。

「アメリカでは発表者側がもてなしをして発表するのが習慣になっていますので」とカヌレを持ってきて下さり、美味しく頂きました。



5. 2024年度第3回(野外)例会

2024年11月20日

日時 11月20日(水)

場所 京都市立芸術大学、六本木

出席者 11名

今回の例会では、昨年秋に新しい学舎に移転した京都市立芸術大学のキャンパスを見学しました。その後ホテルグランヴィア京都15階の中華レストランで食事会を楽しみました。京都駅近く、広々と通りに開かれた新キャンパスでは、陳列室で140年を超える開学以来の資料が展示されていてゆっくり見て回りました。



画学校設立を建議した日本画家幸野楳嶺像の前で集合写真



近代的なキャンパス



陳列室で

6. 2025年新年会

2025年1月19日

日時 2025年1月19日(日) 11:30~14:00

会場 リーガロイヤルホテル京都

参加者 13名

今年の新年会はインフルエンザ等大流行の中での開催でしたが、皆様お元気な姿で出席され安堵致しました。

久保支部長の開会の挨拶では、LAの火災、未だ解決しない北朝鮮拉致問題への不安、気候変動への危惧等ネガティブな世界情勢もある一方、明るく嬉しい報告もして頂きました。今年1月11



日にはJAUW東京本部での新春の集いに参加し、京都支部推薦の学生篠原礼渚さんが社会福祉奨学金の贈呈を受けられ、4月からは同志社大学大学院への進学が決まったとのこと、又来月のJカフェの講師は京都支部会員の佐賀千恵美先生

だということも嬉しいことでした。

支部長の挨拶終了後、アトラクションはマリンバの演奏会でした。奏者は久保支部長所属の「マリンバ鳳凰アンサンブル」です。8曲も演奏して下さいました。マリンバとは、マがたくさんという意味、リンバが木の棒という意味らしく調律不要の楽器だそうです。そう言えば、リンボウダンスって木の棒一本だけだなあと思いました。演奏された曲の中には聞き覚えのある曲もあり、生のマリンバとピアノの迫力溢れるコンサートでした。演奏後のマリンバを解体する現場は興味深いものでした。



その後、ホテルの心づくしのお料理を頂きながら、会員それぞれ楽しくおしゃべりをして、あっという間の2時間半が過ぎお開きとなりました。

今年も会員一同元気で充実した活動に取り組みたいと思っています。



7. 2024年度第4回例会

2025年2月16日

日時 2025年2月16日（日）14時～16時

会場 ウィングス京都地下音楽室

出席者 10名（ビジター1名）

今回は体験例会でした。講師兼指導者に、元大阪体育大学学長の永吉宏英氏、ヒデちゃんさん（～先生ではなく、ヒデちゃんだそうです。ご自身談）をお迎えしてボッチャを体験しました。ここ数年パラリンピックで一躍有名になった競技です。投げてもよし、蹴ってもよし、狙う場所に相手より近くボールを持っていく単純なルールなのですが、思い通りにはならない歯がゆい競技でした。

従来は、競技のルールに従うと障害のある選手は参加できないといったルールありきの考え方だったのですが、ここ数年は、人間に競技のルールを合わせていくようになったと伺い、なるほどそうかと目からうろこでした。

全員参加で2チームに分かれ、ほとんどの会員が初体験で、楽しい時間を過ごしました。ボッチャに興味のある方は、是非ルールを検索してみてください。意外な処でボッチャ体験ができるかもしれません。

